



プロジェクトリーダーが決まる!

第67回 日本医療社会福祉全国大会in神奈川に向けて



成田すみれ

2019年日本医療社会福祉協会全国大会の神奈川開催については、既にご周知のことと思います。去る8月23日第1回プロジェクトがあり、大会プロジェクトリーダーとしての任を頂

いた成田からご挨拶とお願いです。

全国大会は、わが国の病院や診療所等医療分野での60年余に及ぶ医療ソーシャルワーク実践の歩みに寄り添いながら開催が継続されてきています。

今回神奈川の地で開催は、実は1992年に続き4回目です。

当時とは医療を巡る制度環境も、また実際の医療を要する療養者の状況も大きく変遷しています。そして、私たち医療社会福祉事業に従事するソーシャルワーカーが担うべき役割や機能も変化しているものの、一方では大切に守るべき理念や視点など尊寿すべきことも少なくありません。

全国大会は、医療ソーシャルワーカーが自分らの専門職としての実践を“伝え合い・理解し・考え・実践に活かす”ための「出会いと気づき、学び」の場です、日頃は会えない全国各地の仲間との交流、現場実践での課題や悩みの共有化など数の多くの機能があります。

開催は、国内各県での開催ゆえに半世紀に1回という貴重な機会です。日本同様60年余という歴史ある神奈川県協会には、先輩らが担ってきた医療ソーシャルワークの実践が数多くあります。学会では培われて実践報告、現状や課題の共有、そして今後への提案や示唆など、伝えるべく事項が少なくありません。また専門職としての知見や資質を高める実践的活動や、全国に先駆けての事業などもあり、発表が待たれています。

皆さん、全会員大会参加はもちろんですが、まずはどのように神奈川大会を創っていくのか、大会の内容(テーマや分科会等)と一緒に考え、準備・実行への参画支援をお願いします。皆さんの手と 생각이「神奈川らしい大会」には必要です。



募集中!

全国大会に向けて「大会テーマ」「企画」についてご提案をお待ちしています。全国大会実行プロジェクト(仮)会議のなかでは、「神奈川らしさ」「多様性(diversity)」「ともに生きる」「当事者の声を聴く」といったことが話し合われています。また、記念講演にお呼びしたい方の名前も思いつくままに挙がっています。

アイデアをお持ちの方は、事務局あてに、①氏名 ②所属 ③ご提案内容を記載のメールを送ってください。(〆切は、11月末とします。なお、会議で協議はいたしますが、必ずしも採用になるとは限りません。どうぞ、ご了承ください)

第1回全国大会実行プロジェクト(仮称)会議の報告

【専門職としての倫理責任】
医療ソーシャルワーカーは、ソーシャルワークの実践者であり研究者である。医療ソーシャルワーカーは、調査・研究を実施し、研究会、学会や国際会議、集会等においてその研究発表や報告を行う。ソーシャルワーク調査・研究の実施と、その発展により、ソーシャルワークの価値の実現をはかる。



上原嘉子

2019年に第67回日本医療社会福祉協会全国大会、第39回日本医療社会事業学会が神奈川県で開催されることが決定しました。神奈川県では1992年(平成4年)以来27年ぶりの開催になります。約2年後の開催ですが、プロジェクトメンバーは既に始動いたしましたので、ご報告させていただきます。

8月23日、全国大会実行プロジェクトとチームのキックオフミーティングを、かながわ県民センターにて行いました。神奈川県で開催できる喜びと未知なる目標に向かって進む不安を抱きながら参加しましたが「神奈川県らしいテーマは何か?」「どんな方をお呼びしたら皆さんに喜んでもらえるか?」

「たくさんの方に参加もらうにはどうしたらよいか?」などメンバー間で活発な意見交換をしました。

過去最大の参加者数と神奈川県の会員の皆さんに、たくさん学会発表をしていただけるようにする事が今回の会議で決定いたしました。今後PVの作成やface bookの立ち上げなどを検討しています。

全国大会はプロジェクトメンバーだけで作り上げるものではなく、会員の皆さん全ての力が加わって初めて作り上げることが出来ると思います。今回の大会が実りある学びの機会となりますようメンバー一同邁進して参ります。

次回号ではプロジェクト名も決定してお知らせ出来るかと思

います! これから、どうぞよろしく願

いいたします。

第2回全国大会実行プロジェクト(仮称)会議の報告

2017/9/14

9月14日、第2回全国大会実行プロジェクト会議をかながわ県民センターにて行いました。

9月10日に行われた日本協会との打ち合わせの報告がありました。大会会場は、「パシフィコ横浜」等が、同時期に国際会議が開催予定のため予約がおさえられており、一般予約は受付していないとのことでした。今後、空きが出る可能性もありますが、確実に予約できるとは限らないため、現状で予約可能な「新横浜国際ホテル」2019年6月7日(金)~6月9日(日)の提案がありました。プロジェクト内では、収容人数や動線の確保に不安との声もあり、再検討したいと考えました。後日、日本協会からも「神奈川の考えを尊重し大会準備を一緒に進めていきたい」と話がありました。費用や場所、予約可能な時期等クリアする条件は多々あります

が「2019年に神奈川でどのような全国大会をめざすのか」「そのためにはどのような会場が必要なのか」神奈川の考えをまとめていきたいと考えています。様々な会場の選択肢を作るため、慶應義塾大学、日本女子大学等も打診中です。日程についても会場の決定とあわせて決まることになりそうです。

その他の議題では、大会テーマについて話し合いました。会員にアイデアを募り決めていくことになりました。また、今後、事業を進めていくため、担当グループを作りました。以下、事業部会です。

- 広報部会 (プロジェクト名の検討、ロゴマークの検討、ニュースレターの企画、編集)
- プロモーション部会 (プロモーションビデオ等の企画、作成)

- 学術部会 (学会発表講座の企画・作成、神奈川県からの共同発表、学会発表者のサポート)
- 全体プログラム部会
- 交流部会

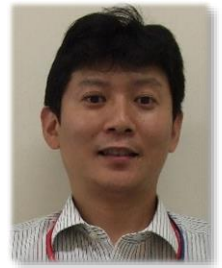


中村悦史

会員の皆さんが、神奈川大会をどのようにおかえるか。当日見に行くもよし、発表するもよし、一緒に大会をつくるもよし。プロジェクトにかかわりたい方、まだまだ間に合います。興味のある方は県協会事務局までご連絡ください。

次回のプロジェクト会議は、県西地区の方も参加しやすい場所を検討しています。

めざせ！初めての学会発表－研究と実践報告



水野茂樹

「神奈川県で私たち医療ソーシャルワーカーの学会が開かれる！聴きに行くだけでなく、この際、思い切って発表をしてみよう！」そんな気持ちになって欲しいと思って、このシリーズを始めます。

ここでは、研究発表だけでなく、実践報告も含めますが、ポイントは「私たちだからできる発表」そして「私たちにもできる発表」です。初回は、水野が担当します。発表のハードルをぐんと下げながら、でもせっかく皆に聴いてもらうんだから、押さえておいたほうがいいことについてご説明しますね。

これを読まれている方の多くは、実践現場のあるソーシャルワーカーだと思います。毎日のように、いろんな相談の対応をしていますよね。すごく忙しい。また、クライアントも様々で「いつもと同じ！」なんてことはない。ところが、そんな業務のなかで「なんか、おかしい」「あれ、これって前にもあったよな？」「このケース、すごく難しかった。なぜ？」「新しい取り組みを振り返ってみたい」と思うことはありませんか。これが、発表の種となり、成長していく可能性を秘めているのです。

今、やっておいたほうがいいのか、そう！「発表の種」探しです。日頃の業務の中で、感性を研ぎ澄ましてみましょう。よく見て、よく耳を澄ませます。「発表の種」らしいものを見つけたら、忘れないようにメモしておきましょう。そして、関連する記録をより丁寧に書く、データを残しておく、後で役に立ちます。

さて、そんな「発表の種」探しですが、気をつけなければならないことがあります。まず第一に、私たちにとって「多少なりとも役に立つ可能性がある」ことが必要です。全く役に立たないと思っていることに、時間と労力をかけるのはもったいないです。

次に「新たな発見や取り組み」があること

が重要です。世の中、そう新たなことはないよと思われるかもしれませんが、んが・・・ところで、エベレスト（チョモランマ）に

初めて登頂したのはヒラリーですが、それで全てが終わったわけではありません。別ルート、女性初、日本人初、季節をかえて…と「新たな」取り組みが行われてきました。エベレストとは飛躍しましたかね。発表に戻しましょう。過去に行われた発表であっても、今の環境でどうなのか、また、個人レベルで初めての挑戦であっても、それを一般化したときに新たな発見や取り組みがあれば、十分に発表する意義はあると言えるでしょう。また私たちの業務は、診療報酬等の改定の影響を受けることが多いので、新たな枠組みにはそう困らないとは思いませんか？

最後ですが「発表のために何でもしていいわけではない」ということも重要です。これは、別の回でも詳しくご説明する予定ですが、決してクライアントを傷つけるようなことはあってはなりません。皆さん、医療ソーシャルワーカーだから大丈夫ですよ。

それでは、次回までに「発表の種」を育てていきましょう！



神奈川デッサンクイズ
「さて？ここはどこでしょう？」



答えは次号で！

参考文献：岩田正美・小林良二・中谷陽明ら編(2006)「社会福祉研究法 現実世界に迫る14レッスン」有斐閣アルマ。

当協会の会員は、(公社)日本医療社会福祉協会会員と同じ参加費で、
全国大会に参加できます。(予定)
なお、研究発表にあたっては、(公社)日本医療社会福祉協会会員であることが必要です。

プロジェクトメンバー(2017年9月7日現在)

50音順:敬称略

名前	所属	所属地域
上原 嘉子	日本医科大学武蔵小杉病院	川崎市
宇田川 伊津子	森下記念病院	相模原市
菊池 まどか	神奈川県立がんセンター	横浜市
斉藤 正和	相模原中央病院	相模原市
櫻井 優光	小林病院	小田原市
佐々木 麻里	横浜市立市民病院	横浜市
佐藤 綾乃	神奈川県立がんセンター	横浜市
佐野 晴美	横浜中央病院	横浜市
重本 晴賀	西湘病院	小田原市
渋谷 麻美	新横浜リハビリテーション病院	横浜市
鈴木 克典	藤沢本町ファミリークリニック	藤沢市
左右田 哲	北里大学病院	相模原市
高瀬 昌浩	横浜医療センター	横浜市
高橋 恭子	神奈川県立保健福祉大学	横須賀市
富永 千晶	賛育会病院	東京都墨田区
中村 悦史	ラウンジヒル湘南台	藤沢市
成田 すみれ	いきいき福祉会	横浜市
長谷川 知美	長岡病院	茅ヶ崎市
半沢 英明	鎌倉リハビリテーション聖テレジア病院	鎌倉市
一杉 浩史	上白根病院	横浜市
藤田 寛	横浜労災病院	横浜市
福田 美香	東名厚木病院	厚木市
堀越 由紀子	東海大学	伊勢原市
水野 茂樹	国立病院機構神奈川病院	秦野市
陽田 加奈子	厚木市立病院	厚木市



【お問い合わせ先】

(一社)神奈川県医療ソーシャルワーカー協会事務局 TEL/FAX 045-827-1217 E-mail: msw.kana@proof.ocn.ne.jp